

0号館 BS 飼育室（飼育室 7）利用マニュアル

1. 使用できる飼育室

0号館1階の飼育室7

2. 使用可能動物種及び品質

この部屋で飼育可能な動物種はマウスです。品質については信頼のおける業者から搬入したヌードおよびスキットマウス等の免疫不全動物、もしくは保証書のついた動物に限る。

3. 動物の搬入と搬出

- 1) 搬入は、施設で行う。
- 2) 利用者が動物を0号館から搬出する場合は、貸出し用小ケージで行うこと。
- 3) 貸出ケージを使用する場合は貸出表に記入すること。

4. 生物材料を使用の実験

生物材料を持ち込む場合には、その細胞が病原微生物に汚染されていないことが前提となる。所定の書式（[ダウンロード](#)）に必要事項を記入し、検査成績書を添付して施設に提出してください検査成績書のない場合は施設に相談すること。

5. 作業動線について

免疫不全動物→通常動物を遵守する。

6. 入室

- 1) 入館し、更衣室にて用意してある帽子・マスク・前掛け、Tシャツ・ズボン・靴下を着用すること。
- 2) 更衣室にて手指をきれいに洗い、備え付けのアルコール消毒すること。
- 3) エアシャワーを浴び、クリーン域専用のサンダルにアルコールをかけ履くこと。
- 4) クリーン域に用意してある防塵衣を所定の場所装着して下さい。
- 5) 飼育室前で指定の履物（滅菌したサンダル）を飼育室専用の履物に変えること。
- 6) 飼育室にてゴム手袋をつけ、着用のまま手指をアルコール噴霧すること。

7. 実験器具等の持ち込み

- 1) オートクレーブ可能な物は、可能な限りのオートクレーブを利用すること。

- 2) 上記以外の器具類の搬入はエアシャワー横のパスボックスを利用すること。
- 3) 器具類を入れた袋の表面をアルコール消毒すること。

8. 実験等について

- 1) 実験処置やケージ交換はすべてクリーンベンチ内で行うこと。クリーンベンチは予約制。
- 2) クリーンベンチを使用の場合は作業前5分間以上運転してから使用すること。
- 3) ケージの飼育室内での移動はフィルターキャップをかぶせたままで行うこと。
- 4) 動物への処置等は慎重に行い、動物の逃亡には細心の注意を払うこと。
逃亡した動物は利用者が責任を持ってその日のうちに処理すること。
- 5) 利用者自らケージ交換する時には、餌は使用済みケージ内に捨てること。
餌は適量
(目安：ペレット3粒/1匹/1日)を与えるように心がけること。
- 6) 給水は自動給水ですが、仔マウスなど給水ビンを用いる場合は施設で管理すること。
しかし、利用者自ら行う場合は週に最低2回は新鮮なものと交換すること。
- 7) 実験終了後は実験台、クリーンベンチ等を備え付けの消毒液を用いて清掃すること。
- 8) 使用済みのケージ等は所定の場所に出すこと。

9. 飼育管理について

- 1) ケージ交換は施設職員が週1回を目安に行う。ケージ・給水ビン等交換不要の場合は、
ラベルを用意しますので貼り付けをお願いする。
- 2) 飼料には放射線滅菌したものを（ピコラボ）施設が用意する。
- 3) 飲料水は水道水（塩素濃度：0.3~0.7）をフィルターを通して自動給水装置にて
供給している。

10. 退室

- 1) 部屋の電源等のチェックをし、各ドアをきちんと締めて入室と逆の順路で退室すること。
- 2) 手袋は飼育室内のゴミ箱に捨てること。
- 3) 防塵衣は所定の場所で脱衣し、防塵衣回収箱に入れること。
- 4) 帽子・マスクは更衣室にあるゴミ箱に捨てること。

1 1. 廃棄物等の処理

- 1) 飼育室内で発生したゴミは、室内のゴミ箱に捨てること。
- 2) 動物の死体はビニールの袋に入れ、1階エアシャワー前の専用フリーザーに入れること。

改訂 2011/11/1